

清水恵さんの業績について

函館市 中村和之

二〇〇四年十月一日、函館市史編さん室主査の清水恵さんが亡くなられた。享年四十五歳。あまりにも突然の話で、函館日口交流史研究会の会報とともに送られてきた、清水さん逝去のお知らせに、私は呆然としてしまった。

私は、生前の清水さんとは、それほど長い付き合いがあったわけでは



▶北海道・東北史研究会函館シンポジウムⅡで報告する清水さん

ない。二〇〇一年に今の職場に移り、函館市に住むようになって初めて面識をえたのであるから、三年間ほどのことである。しかも、研究する時代とテーマが離れていたため、私が市史編さん室の蔵書を調べたい時などに、一方的に勝手なことをお願いしていたにすぎない。

一緒に何かをしたことといえば、二〇〇二年七月二日から二八日の日程で開かれた北海道・東北史研究会の函館シンポジウムⅡで、清水さんが「ロシア革命に巻き込まれた日本人―函館を中心に―」と題する報告をされ、私が上磯高等学校の岸甫一氏と一緒に司会を担当したことがあるくらいである。この時の記録は、

北海道教育大学函館校の根本直樹氏の手で『日本の北方地域と北東アジア』と題して翌二〇〇三年に刊行されているが、討論の部分をもとめる際に、テープ起こしの原稿を手直ししていた。ずいぶん無理を言っているが、もしかしらば、その時にはこの病気が進んでいたのかもしれない。

清水さんは、一九五九年に北松山町で生まれ、室蘭高等学校を卒業後、北海道大学文学部で英文学を学ばれた。一九八二年に函館市に就職、教育委員会勤務を経て、八五年から市史編さん室に勤務している。

た、H・A・テイレイ『日本、アムール川、太平洋』などの史料紹介であり、最も新しい業績は『異郷』二〇所載の「幕末のロシア語通訳、合田光正のその後」である。全部で四七篇、いずれも珠玉の作品である。そのいくつかを紹介してみよう。

「一八七七年、瀬棚沖におけるロシア軍艦『アレウト号』の遭難をめぐる」と及び「同補遺」は、細かな事実の考証と現地資料との照合で、まさに地域に根ざした研究である。また、「函館でロシア貴族と結婚してインドネシアへ行った女性」は、軽やかな筆遣いで始まる。「今から数年前、古い新聞をみていた時に、こんな見出しが目にとまった。その昔函館から消えた美人／今は南島に輝く女王／碧眼の伯爵とジャワの密林に／豹と戦う美女(昭和八年九月二日付け「函館日日新聞」)まるでソフィア・ローレンかジェーン・フォン

ダあたりが主演の映画の広告のような。この新聞のヒロインは、函館生まれの三輪秀子、碧眼の伯爵とは、亡命して函館で暮らしていたロシア人N・グラヴェという人物である。」この一文からも清水さんの文才がうかがうことができる。

なお、友人の大道敏子さんによつて「函館・露西亜物語」という清水さんを紹介するホームページが開設されている。清水さんの生前のお姿や経歴が公開されている。さらに特筆したいことは、清水さんの論文・随筆が年代順に公開されていることである。比較的古い時代の四篇を除いて、清水さんの業績は、ほぼすべてこのホームページで読むことができる。ぜひ一度ご覧いただきたい。URLは以下のとおりである。

<http://megumi-shimizu.jp/infosee/koo.jp/index.html>
(本協会会員、函館工業高専教授)

文化の花開く北の若者たち②
豊富高校郷土研究部

本校のある豊富町は、エゾカンゾウやワタスゲが咲き乱れる「利尻・礼文・サロベツ国立公園」、石油臭のする皮膚病によく効く最北の温泉郷、ヨーロッパを思わせるなどらかな宗谷丘陵地とまさに自然の宝庫といえる町です。しかし、高校を卒業すると町に残る生徒はごくわずかで、ほとんどが札幌や旭川などの都市部へ進学、就職のため離れてしまふのが現状です。このような状況の中、町をよく知り、広く伝えようとして、郷土研究部は発足しました。



北海道豊富高等学校 郷土研究部

本校の郷土研究部は、「地域理解」「地域伝達」を二大目標に掲げ、毎年テーマを設定し取り組んできました。初めは、豊富町の歴史に関す

る研究が中心でしたが、近年はテーマをやや広く設定し、地域の古きから聞きとりした苦労話や、エピソードなどをもとに、豊富町の時代背景を調査、研究してきました。この成果は、高文連全道郷土研究発表大会で、数回最優秀をいただき、平成10年には鳥取県で開かれた全国高等学校総合文化祭に出場し、優秀賞を受賞することができました。このことは、生徒たちの努力が実ったもので

あることは言うまでもなく、郷土研究部を支えてくれた地域の方々への賞であるともいえます。これまで多くの貴重なお話を聞かせてくれた古老の方々には、この場を借りてお礼を申し上げます。

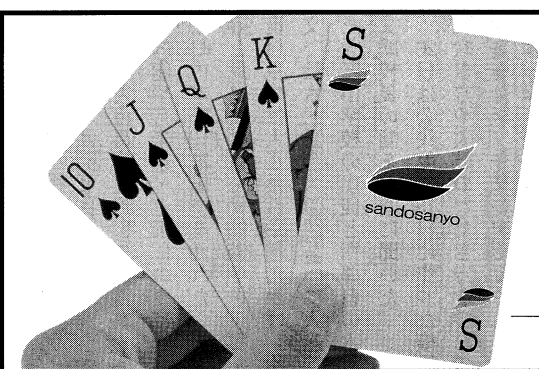


▲札幌市で行われた全道高校郷土研究発表大会(平成15年)

てきました。当時の民話集は、大人向けに作られた文章が中心の作品で、小学生にはやや難しいものでした。そこで、部員から声が上がりました。そこで、豊富町立温泉小学校の児童が紙芝居にして学芸会で発表するという活動も行わ

れたきました。当時の民話集は、大人向けに作られた文章が中心の作品で、小学生にはやや難しいものでした。そこで、部員から声が上がりました。そこで、豊富町立温泉小学校の児童が紙芝居にして学芸会で発表するという活動も行わ

ような形式へと変更しました。地域の歴史や、古き話の話を誰もが理解できるこの民話集は、まさに「地域伝達」という目標を達成することが出来たと思っています。



真剣勝負

山藤三陽印刷株式会社

〒063-0051 札幌市西区宮の沢1条4丁目16-1 【営業部】代表電話(011)661-7163 FAX.(011)661-7173
東京支店/電話(03)3518-4631 FAX.(03)3518-4633 苫小牧営業所/電話(0144)34-8078 FAX.(0144)31-2423 千歳営業所/電話(0123)26-3555